

開創 2 周年記念法会

▼2014 年 (H26) 12 月 2 日 (火)

9 時半受付～12 時

▼場所：円光寺 津市河芸町上野 2861

TEL059-245-4132

▼内容：すでに満願された方、これから巡拝される方の為に「幸せ祈願法会」です。

※七福ごはん、甘酒などを用意しています。

参加費はご志納です

■信長の世界 辞世の句

四天王寺東堂 倉島昌行

当山の霊苑の山際に、織田信長の生母おるいの方(土田御前)の墓所がある。翠に苔むした墓石は 400 年余りの間、鎮かに津市の街並みを見守っている。

信長の弟信包(のぶかね)は安濃津に築城した最初の城主だった。この頃四天王寺は、織田家の庇護を受けて諸寺宇(しょじう)を改修している。また現存している高さ 3 メートルに及ぶ三面大黒尊天も織田信長公祈願像として祭られている。あちこちで戦塵の火をあげていた覇者・信長は、生母おるいの方を安濃津城に預け、本能寺に赴いた。一方おるいの方は病中の身を弟信包の元に置き、闘病の日々を送っていたが、城中にてこの世を去った。その時文禄 3 年(1594)1 月 7 日のことであった。信包は手厚く母を葬り、四天王寺墓地の中段に墓所を設けて、供養の誠を捧げた。戒名に花屋壽栄(かおくじゅえい) 禅尼と諡(おくりな)されてある。

人生流転というが、織田家は後、江戸時代に至って山形天童の城主ほか大名として、その生を相続された。信長の生き方の是非はしばらく



さて置き、その辞世の句を味わう限り、死と真剣に対峙した姿勢の人物と見られる。

人生 50 年 下天のうちを比ぶれば 夢幻のごとくなり ひとたび生を得て滅せぬもののあるべきか

信長が好んで舞った「敦盛」の一節だが、まるで辞世の句のようにぴたりと当てはまる。

50 年という短い娑婆世界を振り返り、比べてみればまさに夢、幻の如き人生であった。幾重にも織り成す愛憎に身震いする人生でもあった。一度人間として生を享け、一生を休む間もなく活躍し、策略を巡らし生き抜いても、仏教で教えるように、生者必滅の絵模様と現じて散り行くものである。

「やがて死するものの、今いのちあるは有難し」や、「人のあまた死する中に、われ生きてあり」という法句教の一節を彷彿とさせる。

信長という人物も、ともすれば仏教の敵のように評せられるが、各所で寺院の修復やら寺領の寄進なども行っている一面も有ることを、認識しておく必要があると思う。

現代人の意識構造も、果たして当時といかほどの変化があったろうか。

■雑感 七福神の事

三重銀行 津支店長 後藤安正

三重銀行は津にお店を出してはや 72 年。3 回移転して現在の地で 8 年になります。

三重銀行が伊勢の津七福神の神仏に守られて商売が続けられることに感謝しております。私は津支店長になって 1 年、津の勤務は初めてですが県庁所在地で歴史もあり、名所旧跡など見どころもあって静かな風格が感じられる街の印象です。

ご縁があり伊勢の津七福神友の会会員となりましたが、七福神のことをよく知らないのちよっと調べてみました。

そもそも七福神は最澄が台所の守り神としてヒンドゥー教の神である大黒様を祀ったの

が始まりとのこと、その後土着信仰の神様である恵比須天がセットになり、平安時代には毘沙門天が加わり三神セットになったらしい。鎌倉時代の初期には辯才天、室町時代には布袋尊、福祿寿、寿老神が加わり合わせて七神となり、様々な組み合わせが存在した江戸時代にはほぼ現在の顔ぶれになったようです。

そういえば子どもの頃(50年ほど前になります)台所に大黒様のお札が貼ってあったような記憶があります。子どものころはご利益とか神仏の意味は理解していないので、親から言われるまま手を合わせていただけでした。今考えてみるとまねごとをしているだけですから、ある意味無我で有ったような気がします。

友の会会員になって七福神をめぐるしました。大人になって随分欲深くなってしまい、神仏にたくさんお願いごとをしている自分に気が付きました。それでは神仏に対してあまりにもずうずうしいので、日々は神仏に無事に過ごせることを感謝しつつ、時々ご利益の受け持ちが決まっている七福神をめぐるながらちょっとだけお願いをして、子どもの頃を思い出して穏やかに日々を送りたいとそんな気持ちにしてくれる伊勢の津七福神でした。 合掌



■ヤンゴンで思ったこと

藤江 充 (岡崎市・愛知教育大学名誉教授)
仕事でミャンマーのヤンゴン (ラングーン) に行きました。休みの日に、日本人慰霊塔とシュエダゴン・パゴダに参拝しました。ミャンマーには各地にその土地の根付いたパゴダ (現地語ではパヤー) がありますが、このシュエダゴン・パゴダは、お釈迦様の遺髪が奉納されているところとして特に有名です。

パゴダには仏教の他にヒンズー教、土着の神

様などもまつられ、生まれた曜日による守護仏 (八曜日) が大塔の廻りを囲み、公園のように人々の憩いの場となっています。生まれた曜日は日本でいうと干支や血液型を合わせたようなもので、その人の性格、運命、結婚の相性などに大きな影響を与えるとされ、名前も生まれた曜日に合わせて付けられることが多いということです。

シュエダゴン・パゴダでの一番人気は、LEDの電飾の光背をもった「ゴードマ・ブッダ」で多くの人々が熱心に何回も額を地につける礼拝をしていました。パゴダの黄金色は信者が寄贈した金箔が張り重ねられたものです。金ぴかの仏像と電飾、色彩豊かな大理石モザイクなど、日本の寺院と比べると派手な感じですが、雨期のどんよりした天気にも乾期のからっと晴れた青空にも映える色だと思います。今回はスコールで濡れた大理石の床を、裸足 (皆、裸足になる) でピチャピチャと歩くだけで解放感を味わいました。

少年僧をよく見かけましたが、一定期間、僧侶になる義務があるそうです。多民族国家のミャンマーは仏教徒だけではなく、ヤンゴンという都市でも仏教が生活に根ざしていると思います。ミャンマーの仏教は日本に伝えられた仏教とは流派が異なるそうですが、仏教がアジアの人々をつなぐ絆になっていることをあらためて感じました。



ゴードマ・ブッダへの礼拝

友の会会費納入のお願い

開創2周年が経ちました。友の会の皆様のご協力のもとこれからの歩みを進めていきたいと思っております。なにとぞ来年度も会員としてご協力をお願い申し上げます。

同封の振込用紙をお使いください。

会費 : 1,000 円/年間

金融機関 : 郵便局

郵便振替口座 : 00820-8-123136

口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話 : 059-225-8558

URL : <http://isenotsu7fukujin>

■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・うなぎのつたや 100 円引き 059-228-3005
- ・榊原館 日帰り入浴 お茶進呈 059-252-0206
- ・谷石材 花筒 5%引き 0595-21-2148
- ・大寿司 アイスクリームなどデザートサービス 059-234-5129
- ・はま作 和菓子サービス 059-228-3088
- ・松菱 7階彦兵衛ランチ 700 円以上 コーヒー 1 杯サービス 059-228-6082
- ・都ホテル内 日本料理「浜千鳥」食事の際、10%割引 059-229-2255
- ・ホテル三徳 宿泊客にコーヒー一杯サービス 059-223-3109
- ・伊勢門本店 ランチ以上に自家製プリンサービス 059-221-5777
- ・お菓子處とらや本家 1000 円以上お買い上げでポイント 5 倍押し 059-228-4802
- ・Paradox (パラドックス 津市大門 6-9) アイスクリームサービス 059-264-7877



分け入っても分け入っても青い山

松はみな枝垂れて南無観世音

(山頭火)

編集後記：お正月も直ぐそこ、玄関に七福神の色紙、飾ってみませんか。

池上 kanon@nifty.com